



▲市議会HP



▲録画配信



和賀正義 議員 (TSUNAGU)

## 高齢者福祉の現状と今後は

答弁…申請から認定までの期間短縮に努める

**問** 介護サービスが適正・円滑に行われるためには、高齢者施策の確実な展開が必要である。介護認定期間短縮は、最重視すべきである。高齢化が進む中、調査員の増員、調査委託料の単価見直しが重要であるが、今後の対策について伺う。

**答** 認定調査のDX化を推進し、調査件数の増加に努める。また、調査委託料の見直しについて検討し、協力事業所の確保に努める。介護サービスを必要とするかたができるかぎり早く適切なサービスを受けられるよう、申請から認定までの更なる期間短縮に努める。



## 交通 のりあい交通の未来に向けて

答弁…のりあい交通の普及に努めていく

**問** のりあい交通は10年目を迎え、市民の方から非常に多くの意見を聞く。公共交通の利用実態調査から、今後の進捗を伺う。また、新たな取組として、予約方法、車両の改善、収支率の改善、エリア拡大、登録や予約の周知の連携について伺う。

**答** インターネット予約、キャッシュレス決済導入等の改善を図っている。車両サイズは適切と考える。広告費等の収入については他の事例を調査・研究する。エリア拡大は民業圧迫にならぬよう慎重に検討する。登録や予約の周知は各施設と連携し、普及促進に努める。



加藤一生 議員 (白和)

## 農業の産業化策は

答弁…魅力ある都市近郊型農業を確立する

**問** 県知事が「白岡市などの梨の振興」を表明した。また、藤井市長も「いちごの赤と梨の白で、当市の農業の産業化を図る」と表明している。この状況下、①具体的には、梨産業をどうしていくのか。②当市の農業の産業化をどう志向していくのか。

**答** ①梨の積極的なPR活動により白岡美人のブランド化を推進するとともに梨の苗木及び防除ネット等の助成を継続して実施するなど、様々な形で梨の振興に取り組む。②梨といちごの紅白のイメージが定着するよう本市の立地を活かした都市近郊型農業を確立する。



「白岡美人」の梨箱

## 猛暑 市の猛暑対策は

答弁…今後も熱中症予防の啓発に努めていく

**問** ①本年7・8月の救急車による熱中症搬送者は何人が。②国・県の対策はどうなっているか。また、クーリングシェルター開設は何回あったか。③来年に向け、市はどのような対策を考えているのか。

**答** ①7月は25人、8月は7人であった。②国は熱中症特別警戒情報やクーリングシェルターの制度を創設した。県は熱中症予防のため「まちのクールオアシス」事業を実施中。クーリングシェルターの開設はない。③引き続き、機会を捉えて熱中症予防の啓発に努める。